

交 対 協 第 8 号
令和4年(2022年)6月8日

各構成機関・団体の長 様

交通安全山口県対策協議会
会長 山口県知事 村岡 嗣政

「横断歩道ハンドサイン運動」の推進について (依頼)

平素は、交通安全対策の推進につきまして、格別の御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和3年中、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が実施した信号機のない横断歩道において横断しようとする歩行者がいた場合の自動車の一時停止率において、本県は3.1パーセントと、前年の調査と比べ1.3ポイント上昇し、全国平均を初めて上回ったものの、約7割の自動車が一時停止していない状況にあります。

このような情勢を踏まえ、県では、信号機のない横断歩道において、歩行者と運転者の双方が手で合図を行うことにより、お互いの意思疎通を図る「横断歩道ハンドサイン運動」を推進することとし、県の年間運動の項目に追加するとともに、手を上げて横断することをアピールするため、「毎月5日」を推進日に設定することとしました。

また、夏の交通安全県民運動の初日である7月11日には、横断歩道における交通事故を防止するため、県警察とともにPRイベントを開催することとしています。

つきましては、標記運動に係るチラシを同封しますので、地域、職域、家庭等それぞれの実情に応じた広報啓発をお願いします。

【添付資料】

「横断歩道ハンドサイン運動」チラシ 1部

交通安全山口県対策協議会事務局

(山口県環境生活部 県民生活課 地域安心・安全推進班)

担 当 : 永 田

電 話 : 083-933-2619

FAX : 083-933-4169

メール : chiangyoumu@pref.yamaguchi.lg.jp





手を差し出して
わかりやすく!

お先にどうぞの
ハンドサイン



渡りますの
ハンドサイン

横断歩道

ハンドサイン運動

横断するときは
手をあげてね!

※手をあげられないときは、
顔や体を向けるなどして、
横断の意思をアピール
しましょう



ハンドサインで
みんなスマイル

Special thanks to むつみ小3年生のみなさん

山口県警察



交 対 協 第 1 2 号
令和4年(2022年)6月16日

各構成機関・団体の長様

交通安全山口県対策協議会

会長 山口県知事 村岡 嗣政

二輪車の交通事故防止について (依頼)

平素は、交通安全対策の推進につきまして、格別の御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、県内の交通情勢については、本年5月末現在、交通事故による死者数は14人(前年同期比-3人)と過去最少のペースで推移している一方、本年6月8日には、山口市内の県道上において普通自動二輪車と準中型貨物自動車とが正面衝突し、普通自動二輪車の運転者が亡くなる交通死亡事故が発生するなど、二輪車乗車中の死者数は2人(前年同期比+1人)、重傷者数は33人(前年同期比+4人)といずれも増加しています。

梅雨時期を迎え、雨による視界不良や路面状況の悪化によるスリップ事故の発生が懸念されるほか、本格的な夏を迎えるに当たり、猛暑や強い日光の照り返しなどによる運転者の注意力減退に起因する事故が予想されます。

つきましては、標記チラシを同封しますので、地域、職域、家庭等それぞれの実情に応じた広報啓発をお願いします。

【添付資料】

「二輪車の交通事故防止」チラシ 1部

交通安全山口県対策協議会事務局

(山口県環境生活部 県民生活課 地域安心・安全推進班)

担 当: 永 田

電 話: 083-933-2619

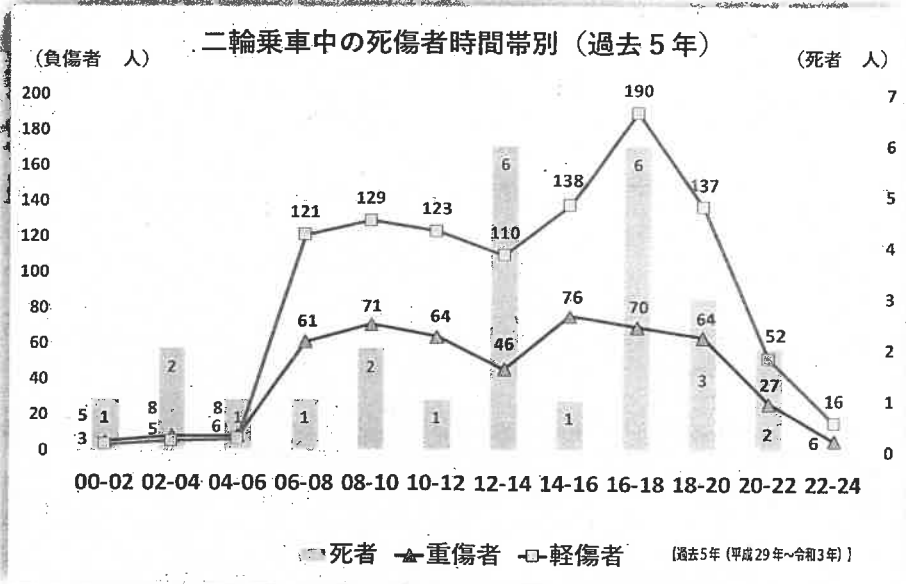
FAX: 083-933-4169

メール: chiangyoumu@pref.yamaguchi.lg.jp

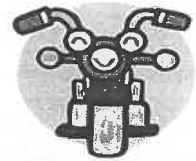
二輪車の交通事故防止

これから梅雨時期に入り、雨による視界不良や路面状況の悪化によりスリップ事故の多発が予想されます。ツーリングをはじめ、通勤・通学などでバイクを利用する際には、速度・車間距離・周囲の安全をよく確認し、自身の技量を過信せず、無理のない運転に努めましょう。

- ◆ 二輪乗車中の死者
12時から14時 (23.1%)
16時から18時 (23.1%)
の時間帯に最も多く発生。
- ◆ 二輪乗車中の重傷者
14時から16時 (15.0%)
の時間帯に最も多く発生
- ◆ 二輪乗車中の軽傷者
16時から18時 (18.4%)
の時間帯に最も多く発生



バイクの注意点を知ろう!



身体がむきだし!



ヘルメットの装着はもちろん、プロテクターの装着や、肌の露出が少ない格好など、自分を守る工夫をしましょう。

存在に気づきにくい!



二輪車を運転するときは、自動車に気づかれていないかもという意識を持ち、危険を予測しながら、速度に気をつけるなど安全運転に努めましょう。

★ 普通自動車などのドライバーは、バイクが死角に入りやすいこと、バイクとの距離感がつかみにくいことを理解して周囲の安全確認を確実に行きましょう。